

株式会社 エーワン精密

平成27年6月期決算説明会

平成27年6月期 決算説明会資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

NC旋盤 2,757億円(2014年生産額) 18,864台

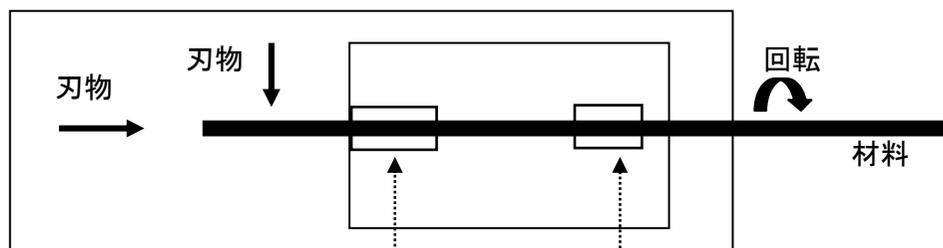
うち CNC自動旋盤約 1,132億円(2014年推定生産額) 約 11,000台

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、高松機械、エグロ

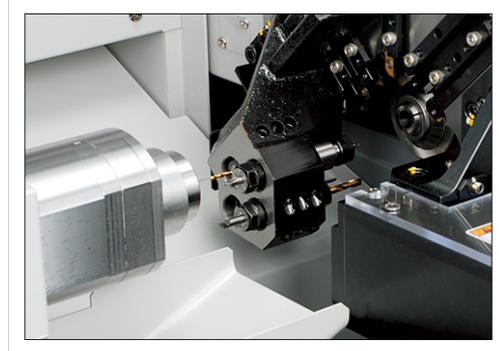
特殊コレットチャック

専用機 1,028億円(2014年生産額) 4,496台



加工部品

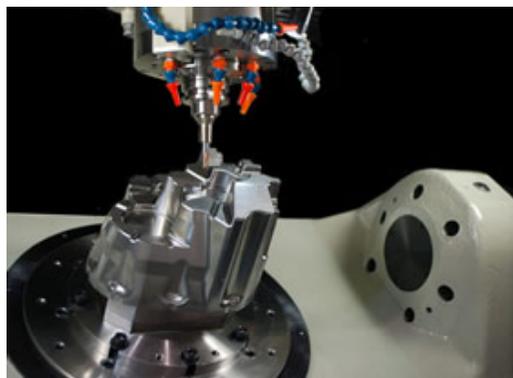
精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンタ	4,990億円(2014年生産額)	56,997台
NCフライス、中ぐり盤	179億円(2014年生産額)	769台

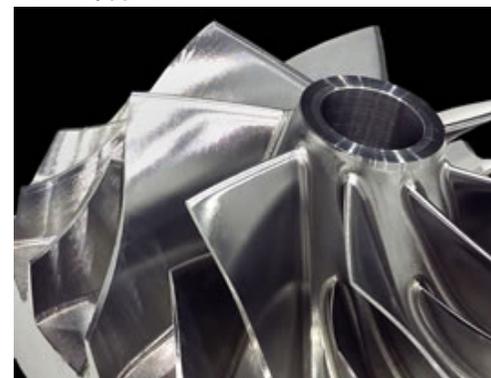
使用される工具

超硬エンドミル	396億円(2014年生産額)
超硬ドリル	304億円(2014年生産額)
その他超硬工具	431億円(2014年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

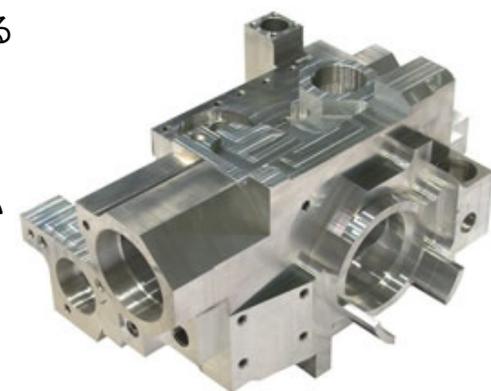
加工部品のイメージ



- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型



自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

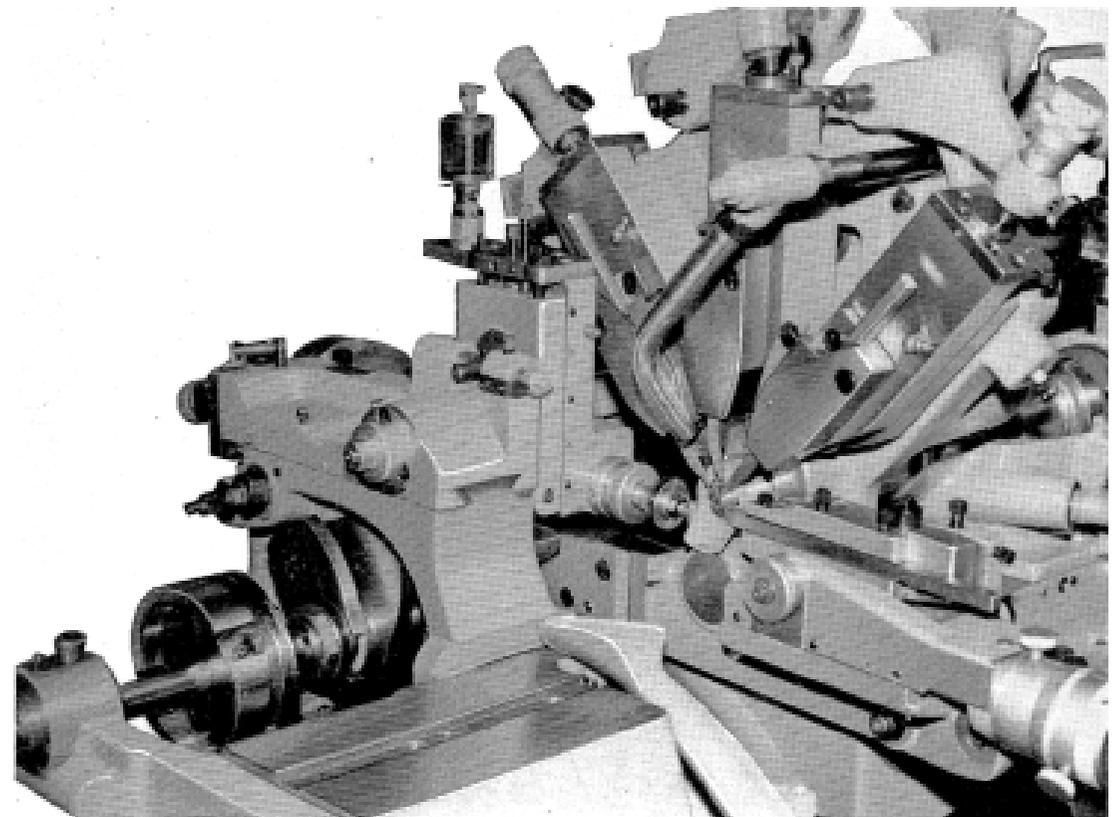
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS-P1053)



カム取付後写真



平成 27年 6 月期 決算概要

売上	<ul style="list-style-type: none"> 国内設備投資が堅調に推移し、付属する工具の需要も増加した。 国内の機械加工がより複雑化傾向にあり、特注工具の受注が順調に推移した。 為替が円安水準に定着、新興国の製造コスト上昇により一部で国内生産比率を高める動きがあった。
原価	<ul style="list-style-type: none"> 人件費は営業利益増加に連動し賞与が増加。減価償却費は減少。
利益	<ul style="list-style-type: none"> 売上が緩やかに回復し、固定費が減少したため利益率が改善した。

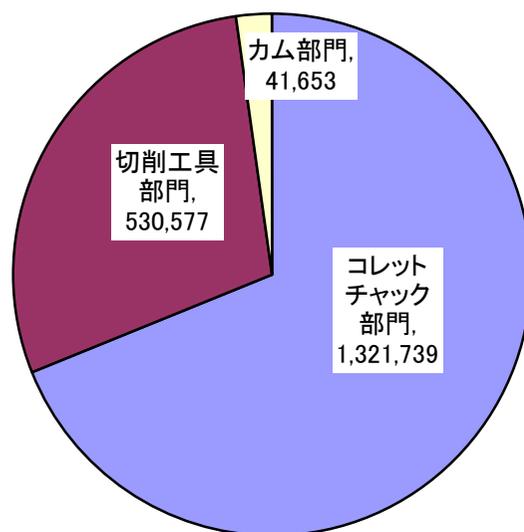
人件費

	24期	25期
労務費	711,249	742,033
コストに占める比率	51.4%	52.3%

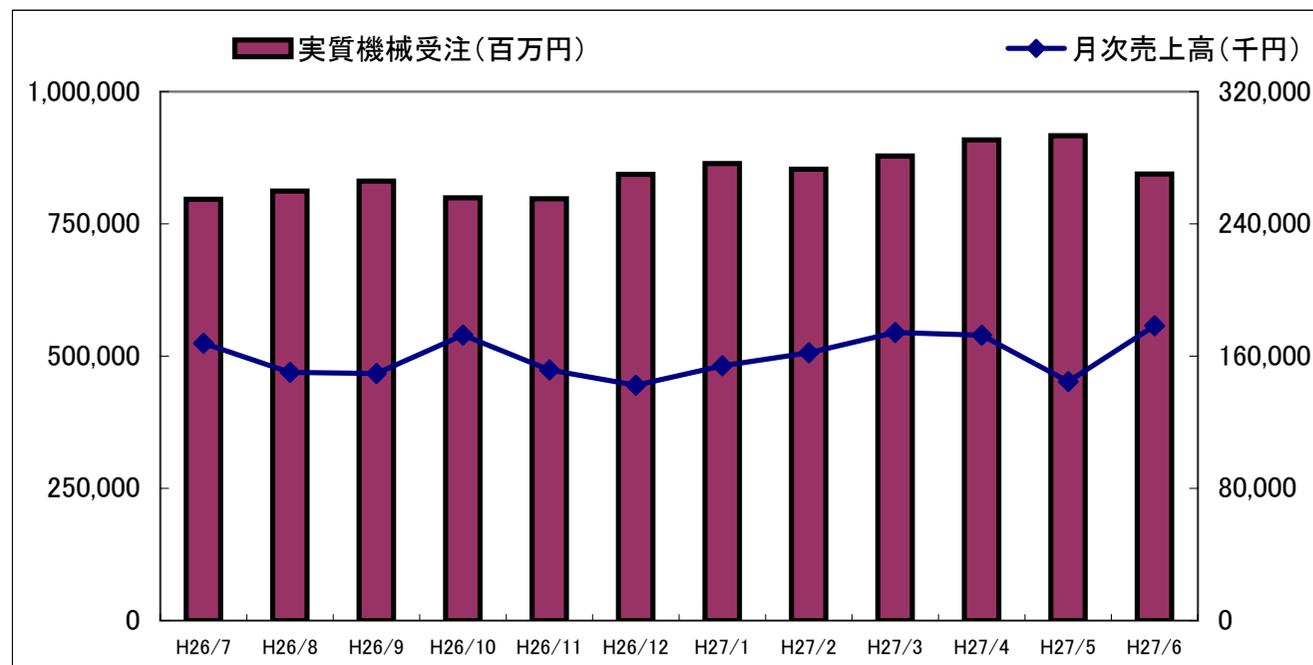
設備投資額と減価償却費

	23期	24期	25期
設備投資額	73,405	140,894	107,982
減価償却費	278,748	239,231	212,072

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成 27 年 6 月期 損益の状況

(単位：千円)

	平成 26 年 6 月期			平成 27 年 6 月期			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	1,248,581	68.5%	106.1%	1,321,739	68.8%	105.9%	・設備投資に伴う付属工具需要の増加
切削工具	530,577	29.1%	103.2%	556,945	29.0%	105.0%	・機械の複雑化・高度化に伴う特注工具ニーズの持続
自動旋盤用カム	43,938	2.4%	112.0%	41,653	2.2%	94.8%	・国内製造業の機械稼働率上昇に伴う工具需要の増加
合計	1,823,096	100.0%	105.4%	1,920,338	100.0%	105.3%	
売上原価	1,102,269	60.5%	101.7%	1,119,285	58.3%	101.5%	・営業利益により人件費(賞与)増加、減価償却費の減少
売上総利益	720,827	39.5%	111.5%	801,052	41.7%	111.1%	
販売費及び一般管理費	282,311	15.5%	104.9%	299,928	15.6%	106.2%	・自己株式取得に係わる費用 10,000千円
営業利益	438,515	24.0%	116.2%	501,124	26.1%	114.3%	
経常利益	462,160	25.4%	115.3%	503,488	26.2%	108.9%	・受取配当金 29,104千円。自己株式取得費用 30,734千円
当期純利益	318,980	17.5%	130.4%	447,101	23.3%	140.2%	・投資有価証券売却益計上(純額) 173,831千円

平成 27年 6 月期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	平成26年6月期		平成27年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	4,376,168	53.4%	3,411,833	43.0%	自己株式買付 840,000千円
売上債権	415,574	5.1%	433,102	5.5%	売上増加による増加
棚卸資産	203,544	2.5%	192,786	2.4%	
その他流動資産	23,329	0.3%	523,373	6.6%	有価証券 500,000千円増加
固定資産	3,178,048	38.7%	3,373,383	42.5%	長期預金 1,101,400千円増加、投資有価証券減少 805,758千円
資 産 合 計	8,196,665	100.0%	7,934,479	100.0%	
負 債・資 本					
買入債務	16,420	0.2%	14,715	0.2%	
その他流動負債	231,322	2.8%	279,191	3.5%	未払金 43,353千円増加
固定負債	417,419	5.1%	481,005	6.1%	繰越税金負債 36,238千円増加
負 債 合 計	665,161	8.1%	774,912	9.8%	
純資産合計	7,531,503	91.9%	7,159,567	90.2%	自己株式増加 △ 840,000千円、その他有価証券評価差額金 119,946千円増加
負債・純資産合計	8,196,665	100.0%	7,934,479	100.0%	

平成 27年 6 月期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	平成26年6月期	平成27年6月期	対前年比増減額	増 減 要 因
営業活動によるキャッシュ・フロー	483,638	571,147	87,508	主な増加要因：税引前当期純利益 169,587千円 未払金の増加 36,191千円 主な減少要因：投資有価証券売却益 140,561千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 547,636	217,871	765,508	主な増加要因：投資有価証券の売却による収入 497,558千円 投資有価証券の償還による収入 500,000千円 主な減少要因：有価証券取得による支出 496,592千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 98,176	▲ 969,625	▲ 871,448	自己株式の取得による支出 870,734千円
現金及び現金同等物の増減額	▲ 162,174	▲ 180,606	▲ 18,431	
現金及び現金同等物の期末残高	408,427	227,820	▲ 180,606	

今後の事業展開 ～ コレットチャック部門



CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 25～30億円
メーカー 4社程度

その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

<今後の方向性>

- ◇小型精密部品の分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)
- ◇世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向
- ◇大量生産品と多品種小中ロット品に二極化している

<国内の状況>

- ◇CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
- ◇国内で推定 12 ～ 13万台の機械が稼働している
- ◇加工ノウハウ、使用工具の工夫で日本企業の競争力は高い

<当社の対応>

- ◇加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
- ◇増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充
- ◇専用機用コレットチャック対応力を高める

今後の事業展開～切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		× △	内製、グループ会社 切削工具メーカー
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	○ ◎	再研磨会社 150社程 全国規模 4～5社 地域型、個人経営 工具商社系
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型 小中ロット加工	市販切削工具	再研磨外注	○	特注切削工具 大手メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社
		市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	◎ ◎	

<市販切削工具の例> 再研磨



<特注切削工具の例> 製作および再研磨



今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

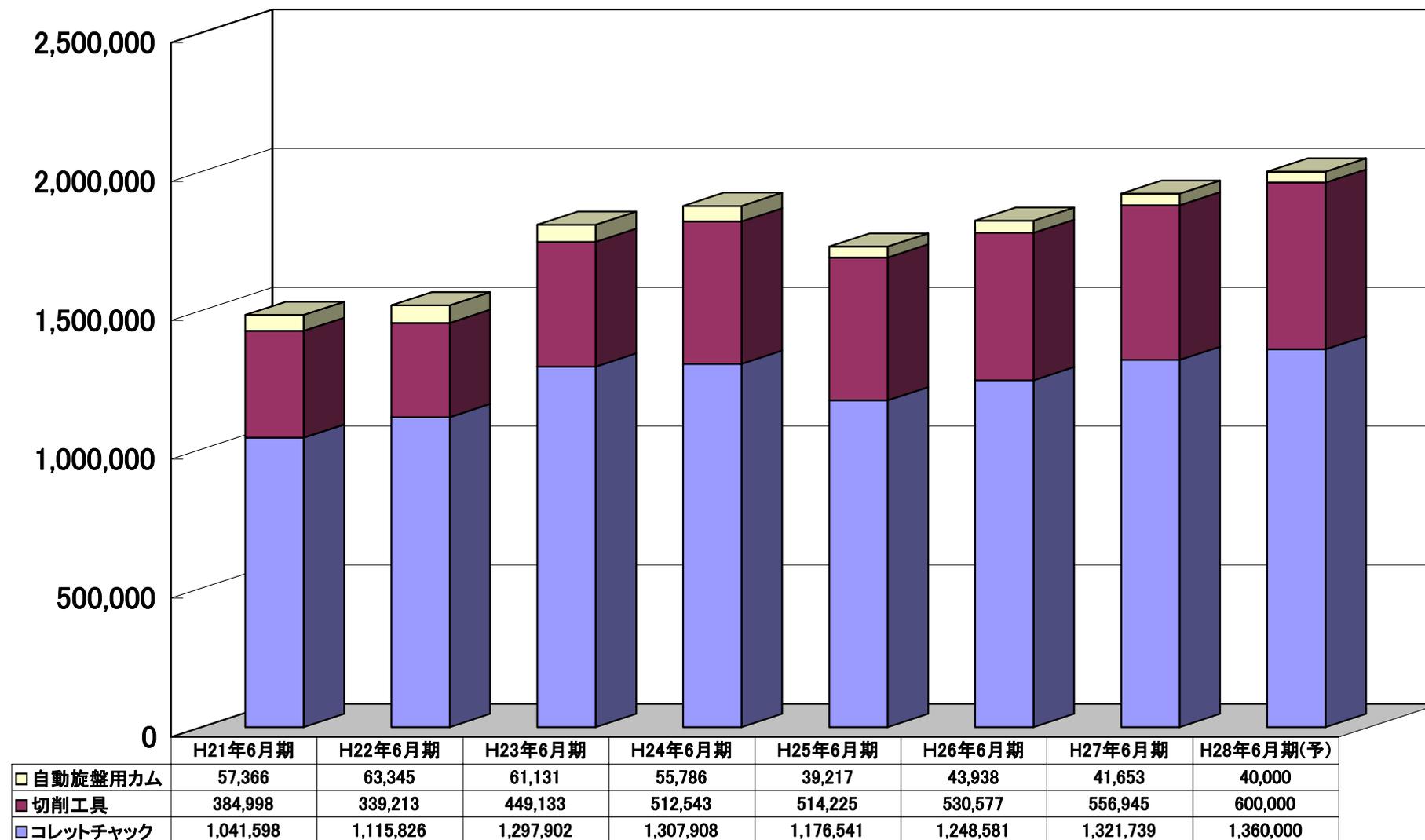
- ◇6千万円弱の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

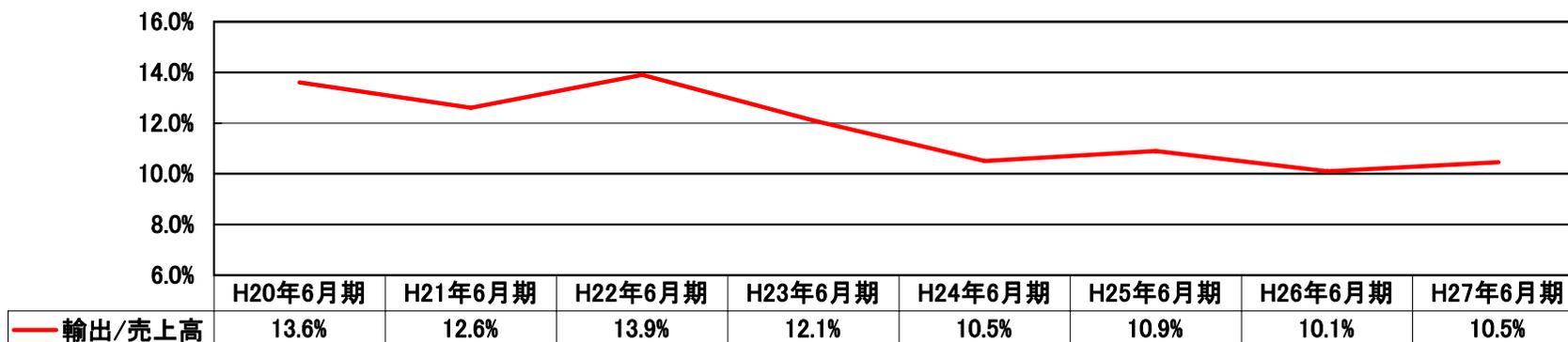
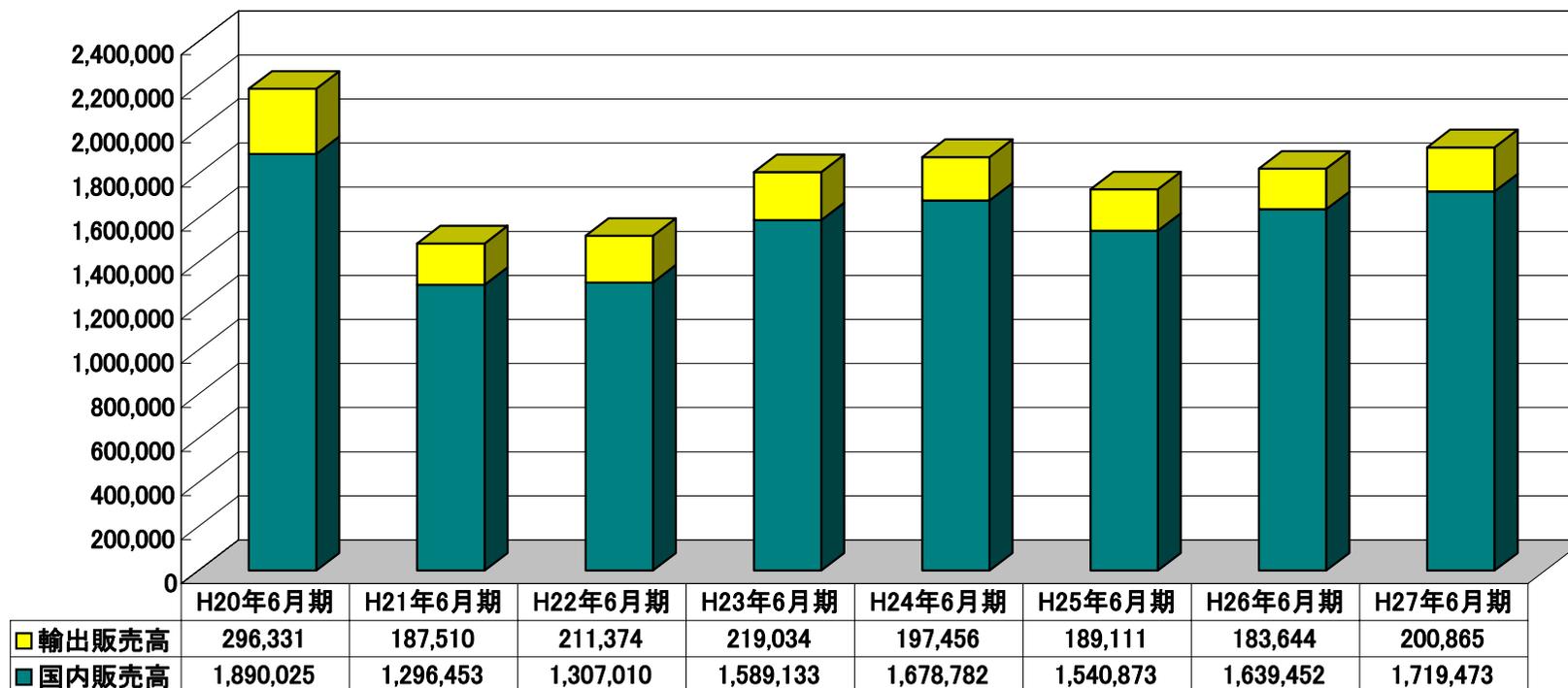
部門別売上状況

(単位：千円)



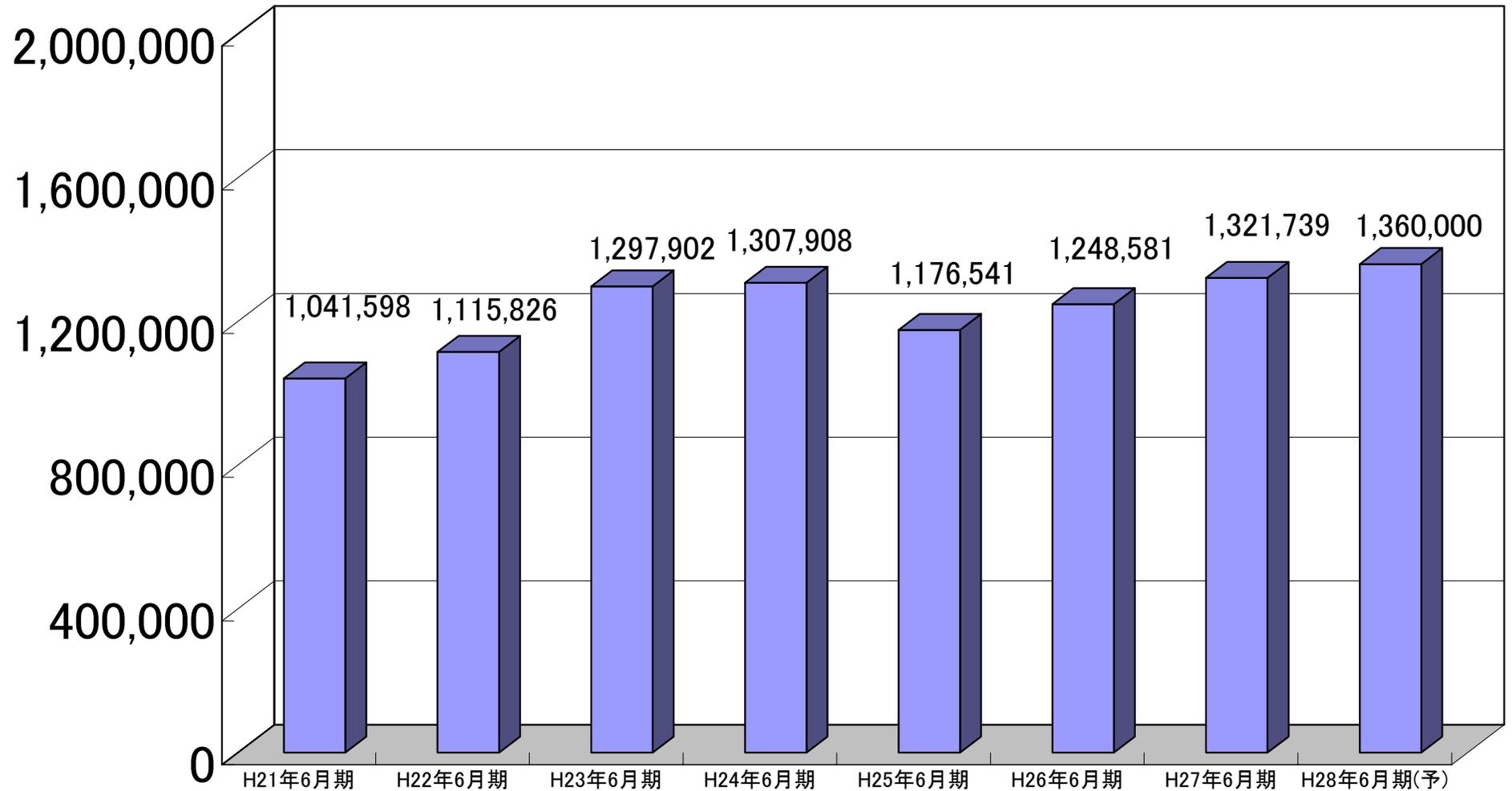
輸出売上状況

(単位：千円)



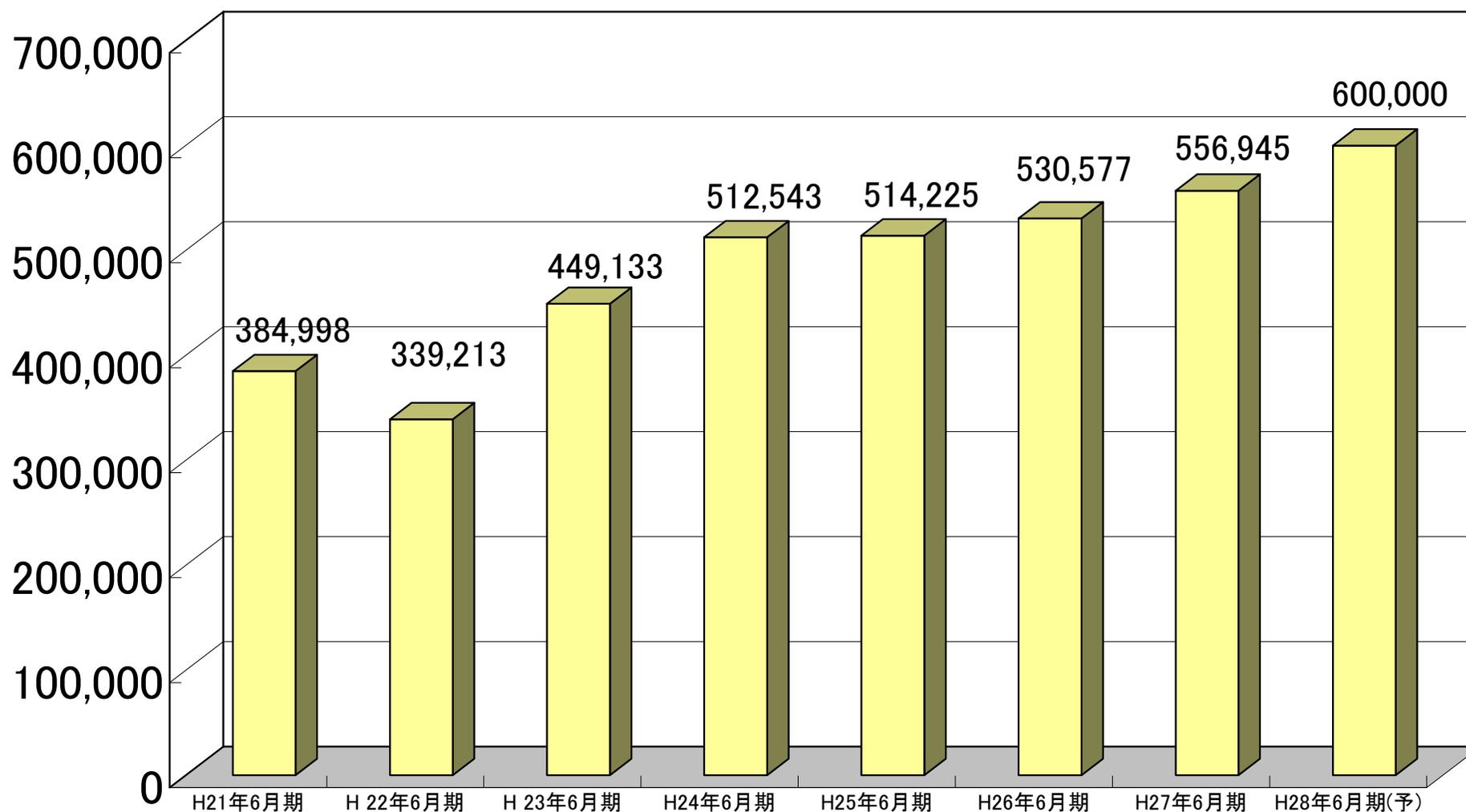
部門別状況 ～ コレットチャック部門

売上高(単位:千円)



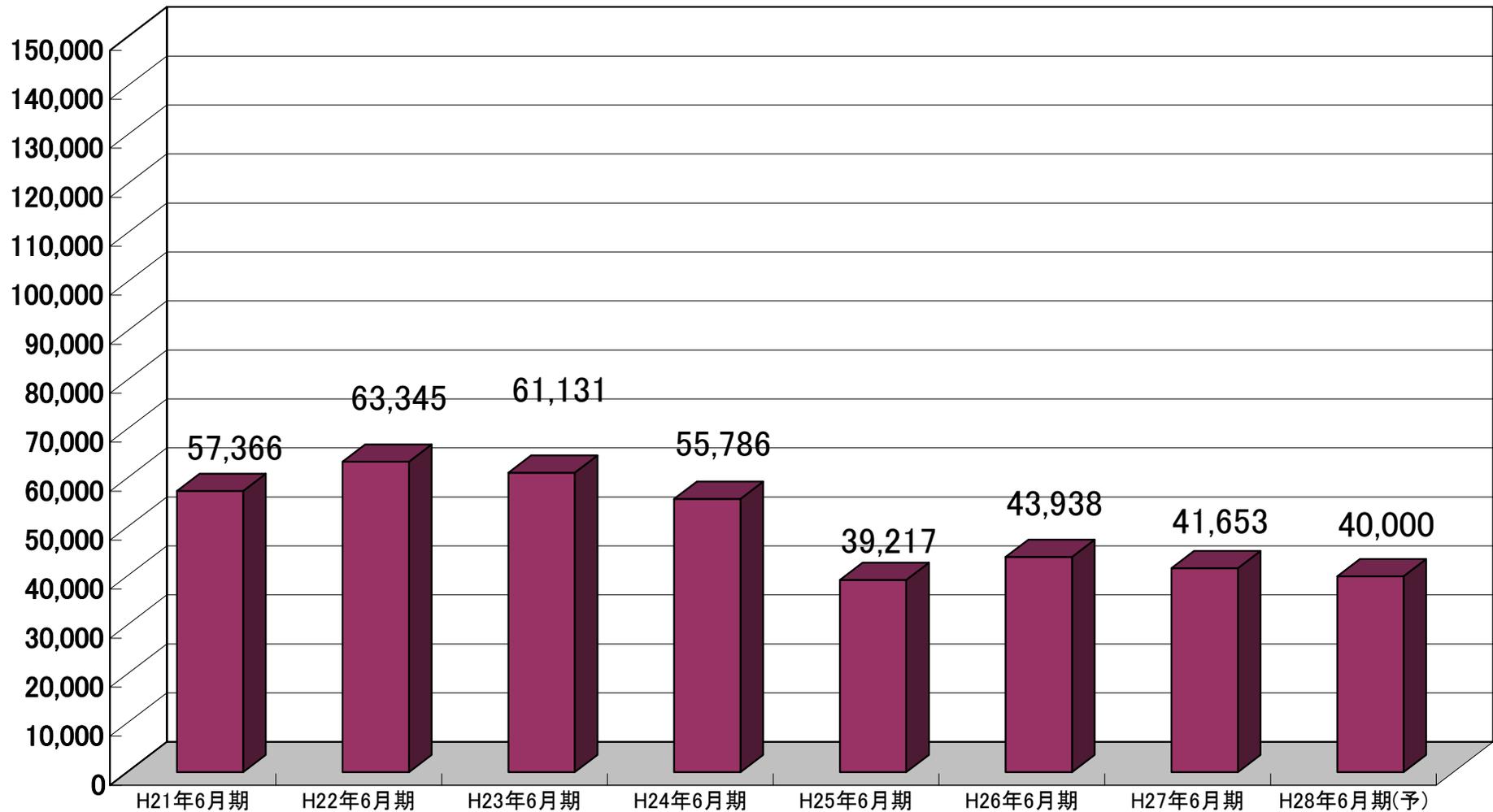
部門別状況 ～ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却

	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期
設備投資額 (単位:千円)	133,667	532,629	73,405	140,894	107,982

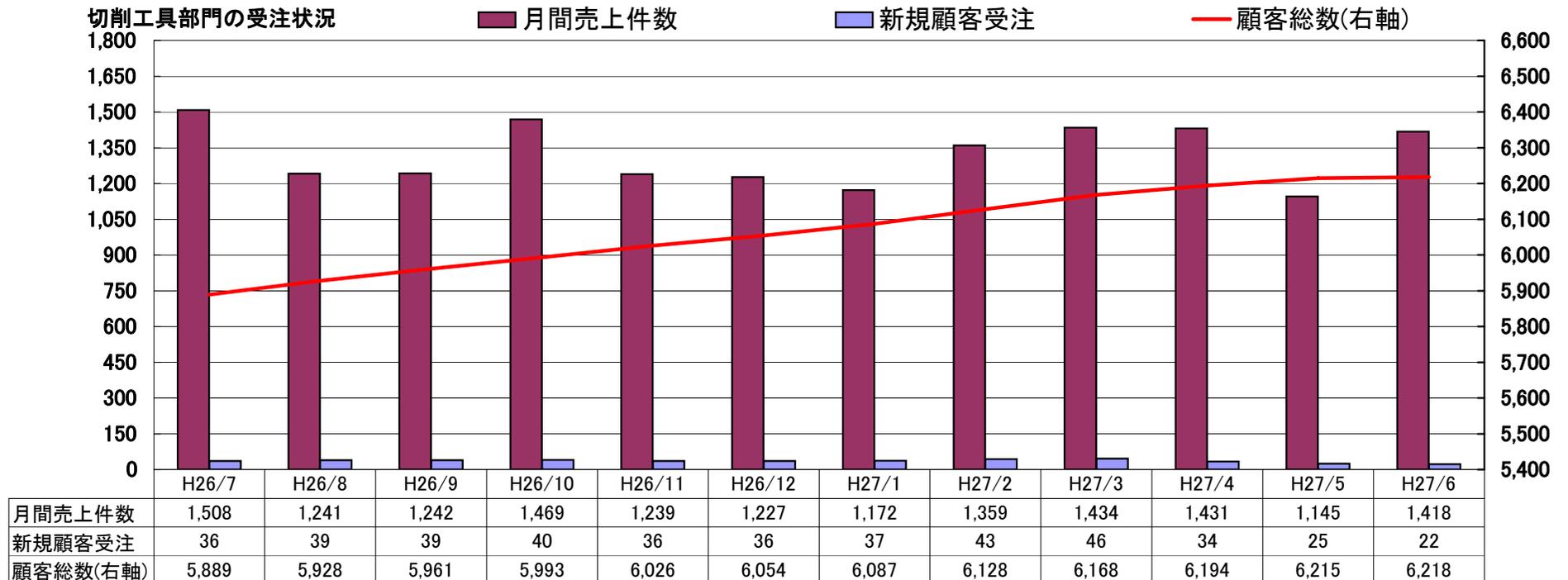
	H23年6月期	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期
減価償却費 (単位:千円)	216,881	291,159	278,748	239,231	212,072

切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める



業績の推移

■ 売上高
 ■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 — 売上高経常利益率
 — 売上高当期純利益率

単位：百万円

